



十文字女子大附属幼稚園 沿革略史

▼昭和 43 年 4 月

今から 50 年前、大学の創立の 2 年後。

この幼稚園は日本幼児教育の祖である倉橋惣三の教えを基として、地域の幼児の環境の充実と教育、短大の幼児教育養成の学びの場として、この地に十文字短大附属幼稚園が創立されました。

以来、本園は恵まれた人的・自然的環境の中で伝統的に園児の主体性を重視した保育を行っています。

初代園長は短大学長の武田一郎、主事は桑原久子が就任。

武田園長は、お茶の水女子大学教授、お茶の水女子大附属小学校校長、北海道学芸大学学長を歴任。

創立時のクラス編成は、3 歳児クラス 15 名、4・5 歳児合同クラス 30 名の 2 クラスでした。

▼昭和 44 年

4 クラス編成となりました。週 4 日給食、水曜日のみお弁当でした。

▼昭和 46 年

5 クラス編成となりました。

▼昭和 49 年

2 代目園長には武田園長急逝の後、坂元彦太郎が学長と園長を併任。

坂元園長はお茶の水女子大学教授、お茶の水女子大学附属小学校校長、幼稚園園長を歴任された幼児教育界の指導者でした。

▼昭和 58 年

園児増員のため、現在のきりん・はらっぱの部屋を、保育室として増設しました。

▼昭和 59 年

在園児の数が 231 名となり、8 クラス編成となりました。(過去最高の園児数)

▼平成 3 年

坂元彦太郎が退任。後任に、短大創立以来美術教育を担当され、幼児教育学科学科長だった林健造が大学退任後、3 代目園長に就任。

(幼稚園玄関のタイルモザイクの壁面の原画作られた方です。)



▼平成 5 年

年少 2 クラス、年中 2 クラス、年長 2 クラスの 6 クラス編成となりました。

▼平成 9 年

4 代目園長に、本学理事で、お茶の水女子大学名誉教授、お茶の水女子大学附属幼稚園園長のご経験があり、著名な英米文学者・随筆家の、外山滋比古が就任にし、主事に大井登子が就任。

週 4 回給食、週 1 回お弁当から、週 3 回給食(月・水・金)、週 2 回お弁当(火・木)に変わりました。O-157 の事件を受けて大学生協の食堂で調理、お弁当箱入りで届く給食になりました。

▼平成 10 年

5 代目園長に、理事・巣鴨の十文字幼稚園園長の十文字佑子が就任しました。

▼平成 11 年

お留守番保育「きりん組」が始まりました。

▼平成 15 年

短期大学を 4 年生大学への改組を受け、十文字女子大附属幼稚園と名称変更をしました。

▼平成 18 年

新館が出来上がりました。(1 階ホール、2 階 年長 あお組・しろ組)

▼平成 20 年

未就園保護者対象講演会「はらっぱ」が始まりました。

▼平成 21 年

未就園児クラス「いちご組」が始まりました。

在園児数が 111 名に減少しました。(過去最低の園児数)

▼平成 22 年

バス 2 台、4 コースに増やしました。

▼平成 25 年

主事に本学幼児教育学科卒業生の竹迫久美子が就任しました。



▼平成 29 年

在園児数は 165 名となりました。

▼平成 30 年

本幼稚園の卒業生は 3303 名となりました。

▼令和 2 年

十文字佑子が退任。後任に、元・十文字学園女子大学 幼児教育学科 教授の伊集院理子が、6 代目園長に就任。伊集院園長は、お茶の水女子大学附属幼稚園で長年教諭として子どもたちの保育にあたっており、副園長職も経験してきました。

▼令和 6 年

伊集院理子が退任。後任に、附属幼稚園 主事を務めている竹迫久美子が、7代目園長に就任。竹迫園長は、十文字女子大附属幼稚園で長年教諭として、そして主事として、子どもたちの保育や、園の運営にあたってきました。

教諭・主事・園長と務めたのは、竹迫園長が初めてです。

また、主事には、本学幼児教育学科卒業生でもあり本園教諭である、白井麻子が就任しました